

とらばーゆは92年、 日・仏合作映画「サム・サファイ」を応援します

「サム・サファイ」は92年5月に渋谷・東急文化村ル・シネマで公開されます



80年2月に創刊された「とらばーゆ」は、92年に創刊12周年を迎えます。これを記念して協賛するウィルジニ・テヴネ監督のフランス映画は、原題が「サム・サファイ」。「それだけで、充分に満足」という意味です。

これまで刺激に満ちていた生活が、実は刺激的でもなんでもない。華やかだと感じていたものが、急に色あせて感じられる。80年代から90年代へ、時代を謳歌したけれど、まだ自分の答えを見い出せていない私たちに、ひとつのメッセージを投げかけています。

この映画は、女優から「ガータベルトの夜」で監督デビューしたウィルジニ・テヴネのほか、バルセロナでの撮影、中野裕通のコスチューム、日仏の共同製作と、話題もたっぶり。そこで、今回は読者の皆さんから、この映画の日本語タイトルを募集することにしました。同時に、映画ビジネスの身身に触れる「1日体験スタッフ」も募集いたします。たくさんの方からのご応募をお待ちしています。

「サム・サファイ」のエバはあなた?

「サム・サファイ」とは、90年代に生きるパリジェンヌ、エバの青春を描いたアート感覚あふれる粋なフランス映画です。そして、このフランス映画は日本との共同製作で作られており(共同製作・巴里映画)、人気のファッションデザイナー、中野裕通がコスチュームデザインをするなど、92年1月の完成が待たれる、注目のフランス映画です。また、従来のフランス映画と趣きを異にしているのは、オリンピックを控えたバルセロナを意識して、前半はスペインの、後半はフランスのそれぞれ著名なカメラマンが製作していたり、また俳優たちもスペインで有名なスターを起用したりと、スペイン的エキゾチックさが生かされたフランス映画であるところが、とても92年っぽい感じを与えます。テーマも、エイズ

募集

1 「サム・サファイ」の邦題を つけてください

ご存知のとおり、洋画には必ず邦題がつけられています。大ヒットした「プリティ・ウーマン」は原題そのままでしたが、気のきいたオシャレな邦題が観たい気分を盛り上げることも事実。さて、この「サム・サファイ」(SAM OF HEART)は、もちろん仏語で、(Game suite)「ものすくすく充分」という意味ですが、同時に「もつ、たくさん」とか「うんざり」という意味合いが強い慣用語なのです。90年代に生きる主人公エバが日々感じている気持をそのまま、テヴネ監督は原題にしています。

さて、これにふさわしい魅力ある邦題を、あなたのアイデアをつけてみませんか? あなたのつけたネーミングが、スクリーンに映し出されるなんて、すこい体験!!

つけ方のコツは、ひらめきが大切。このページに書かれたこの映画のストーリー、ウィジュアル、そして原題の意味も参考にしながら、理屈もキで考えてみましょう。

ちなみに、最近話題になった映画の邦題も、原題をそのまま訳したものと、うんとイメージをふくらませたものがあり、たとえば『コックと泥棒』の妻と愛人は『THE COOK THE THEFTS WEEZER LOVER』と原題そのまま『ベルリン・天使の詩』は、原題『DER HIMMEL DER BERLINER』ベルリンの上空で、『愛をすにいられない』は『UNMONDE SANS PITEE』非情な世界、そして『DEAD POETS SOCIETY』死せる詩人同盟が、なんと『今を生きて』と、こんな具合に邦題はつけられています。

選考委員は、中野裕通(ファッションデザイナー)／玉村豊男(エッセイスト)／武倉忠一(東急レクリエーション映画興行部長)越湖信一(ビクター音楽産業ディレクター)／松永真理(本誌編集長)／高野てるみ(サム・サファイ共同製作プロデューサー・巴里映画代表)の方々(順不同・敬称略)選考のうえ、最優秀タイトルは、「サム・サファイ」日本公開においての邦題として採用させていただきます(以後、邦題は日本公開作品のタイトルとして永久的に保存されます)。発表は、92年発表本誌上で。3月上旬の試写イベントにて表彰。賞品は、「サム・サファイ」公開初日のご招待チケットと、ビデオカメラです。ふるってご応募ください(なお該当するタイトルがない場合は命名は配給会社が行います)。